



みかづき子ども食堂

子どもたちの食と学びの支援の場であり 心を受け止めつなぐ場



この日のお弁当は栄養たっぷりの「とうもろこしごはん」と「チキン&夏野菜のトマト煮込み」

近年、日本の「相対的貧困率」は高くなり、市の子ども生活実態調査（平成30年度）では、生活について「大変苦しい」「苦しい」と回答する世帯が2割に上ります。「みかづき子ども食堂」事務局の大島さんは、以前主任児童委員を務めていた時に同様の問題を抱える家族に困ってききました。当時、関わっていた家族が特に不安に思っていたのが、子どもたちの孤獨な食事や勉強の遅れ。その悩みを改善したいとの思いから、地域と家族を結ぶ子ども食堂を2015年にオープン。この活動で注力しているのが子どもたちの居場所をつくること。楽しみに通い続けられるよう、食事はおいしく安全で栄養バランスが良いものを。学習支援が必要な子どもには、寄り添いながら勉強を教える「みかづき学習室」も開催しています。「居場所が必要な子どもはたくさんいます。大人と過ごす時間が多いほど、子どもたちの変化に気付けます。活動には主任児童委員やスクールソーシャルワーカーの協力もあり、気付きを行政につなぐことで子どもたちの環境改善もできます。食事や学習を提供するだけでなく、心を受け止めるの先へつなげる場所でもあるんです」と大島さん。

活動は行政や生活クラブ（生活協同組合）、企業、市民の方など多くの支援で成り立っています。中でも運営に関わるスタッフの方々は、皆さんが「おせっかいおばちゃん」。子どもたちに積極的に声を掛け、明るく居心地の良い雰囲気づくりに欠かせない存在です。

現在、「みかづき子ども食堂」は新型コロナウイルス感染症の影響で、毎週水曜日に開催していた食堂と学習室をセットにした事業は学習室のみを継続。食堂は集まって飲食することが難しいため毎月第1土曜日に手作りランチをテイクアウトで提供しています。また、第2・4水曜日には食品や日用品を支援するフードパントリーも開始。この活動を頼りに訪れる家族は年々増え、毎回50食を提供するランチは足りなくなることもしばしば。学習室に通う子どもたちも力をつけ、一昨年の高校受験では4名全員が合格しました。

今後の目標は「食事と学習を一緒にできる広い場所の確保」と「中学生に最低限の料理の基礎を教える」こと。「みかづき子ども食堂」は子どもたちにできることを模索し、明るい未来へつなげる居場所を提供し続けていきます。



みかづき子ども食堂の詳細はこちら

みかづき子ども食堂

2015年11月、特定非営利活動法人「ワーカーズどんぐり」内の独自事業活動の一環として子ども食堂を開設。翌年10月に「みかづき学習室」を開始。また、大学の共生社会事業や市の平和事業など、子ども食堂を介した事業にも積極的に参加。貧困世帯の子どもの現状を伝える活動にも努める。現在は、都営住宅の集会室で学習室とフードパントリーを、無償提供の建築事務所1階スペースでランチテイクアウトを実施。



大島登志子さん（後方左から3番目）と「みかづき子ども食堂」の皆さん



支援で集まったお菓子やジュースも一緒に提供